

僕のニューヨークの十日間の留学は、まさに人生の転機と言えるものになっただろう。この留学を通して僕は、英語に対する考え方が変わったり、日本とはまったく違うアメリカの文化をたくさん知ったりして、十日間の留学だとは考えられないほど成長した自信がある。

まずは、英語に関して述べていきたい。僕は英語が中学生のころから得意で、学校では毎回いい成績をとっていた。だからある程度は実際に英語を話せる自信もあった。しかし、机の上の英語の勉強と、英会話というものは全く違った。学校の英語の勉強では、英会話をやる機会などほとんど無かったため、日本語から英語に訳さずに、自分が伝えたいことを、そのまま英語で声に出すということができなかつた。そのため、僕にとって英会話など、ほど遠いものであつた。幸いなことに、このことをニューヨークに行く二週間ほど前に気づいたため、ALTの先生とのプライベート

トで英会話レッスンを積んでからニューヨークに飛びたつことができた。「ネイティブの人でも恐れずに、積極的に英会話を取り行く」ということがニューヨーク留学の一つの目標となった。

そして遂にアメリカの地、JFK空港に着いた。そこで僕はどれほど感動しただろうか。その空港にいる全ての人が英語で話していた。それを見て、自分も英語で話したいという欲求が跳ね上がり、その欲求のまま、この十日

間は英会話を思う存分楽しんだ。グラウンドゼロでは係員に日本語のオーディオガイドが使えるか質問してみたり、メトロポリタンミュージアムでは地図なんかは使わずに、何人もの係員に「踊るシヴァ神の像はどこにあるんだ」と尋ねてみたり、発音の難しいwaterを意識してレストランの店員に水を頼んでみたり、マイラさんとブルーノさんとアメリカの多様性について話したりと、数えられないほどの英会話を体験した。全ての人が僕の拙

い英語を理解しようとしてくれて、自分自身も英会話の能力が上がったと感じている。特に、「But」や「Wait」の発音が無意識のうちによくなっていると気づいた時はとても嬉しかった。何人もの人に話しかけて、実際に言いたいことが英語で伝わったときの喜びがもはや中毒になっていた。

このように英会話を楽しんでいくうちに僕はあることに気づいた。それは、英語はあくまでも、外国の人と会話をするための「tool」だということだ。僕はニューヨークに滞在する前は、英語を大学受験のために勉強してきた。しかし、英語の本質は外国の人とコミュニケーションを取るためであり、その延長線上に大学受験の科目として存在しているということに気づいた。外国の人はやはり違う価値観があり、話すとしても面白い。英語という「tool」でより広い世界を知るために、これから、実際に英会話をすることを想像してワクワクしながら英語の勉強をしていきたい。

次に話したいことは、アメリカのダイバーシティのことだ。ニューヨークには黒人もいれば、白人もいて、ラティーノや、アジアの人も街を歩いていて、確かに様々な人種が混ざり合つてニューヨークを形成していた。日本にはまずない光景にいつも驚いていた。

特に驚いたことは、友達になつたブルーノから聞いた話だ。日本で外国人旅行客がいると、たびたび日本人が親切に目的地への行き方を教えている光景を目にする。ブルーノも

実際に日本に行つた時に、ラーメンの注文の仕方を隣の日本人から教えてもらつたという。このように、日本人は外国人にとっても親切に声をかけることが多く、これはとてもいい文化だと思う。しかし、ニューヨークでは、外国人旅行客に「何かお困りですか。」声をかけるのは、あまり多くないという。それはニューヨークの人が冷たいからという理由ではなかつた。それはニューヨークがダイバーシティの街だからなのだ。ニューヨークには先

述した通り、様々な人種の人がいる。もはや、だれが外国人で、誰が外国人ではないのかなど分からない。だから、外国人旅行者に見えるからといって、「何かわからないのですか？お困りですか？」と気軽に聞いてしまうと、もし、その人が現地の人だったら、失礼にあたってしまうのだ。だからニューヨーク現地人は外国人っぽく見える人に声をかけずらいのだ。これはとても面白い日本とアメリカの文化の違いだ。アメリカのダイバーシティから生まれる文化を肌で感じる事ができて、非常にいい勉強になった。

一七歳という若さで日本の外に出れたこと。しかもそれがニューヨークだったということ。この素晴らしい機会を与えてくださった望月さんには感謝してもきれない。この機会を通して、英語を早く習得したいという気持ちが強まり、もつと世界を知りたいという好奇心が芽生えた。この気持ちは今後の僕の人生にとってもプラスに働くに違いない。ニューヨーク

ークの人や建物や文化に、僕がどれほど驚き、
学んだのかは、この留学期間に幾度となく呟
いた「That's crazy.」の数で証明されるだろ
う。